

ワ イ ル ド 書 誌

(1996年5月～1997年5月)

- 荒井 良雄 「オスカー・ワイルド」, 『英米文学映画化作品論』, 新樹社, 1996年5月1日
- 伊藤 勲 「ペイタリアン西脇順三郎——透明性と文体の魂」, 『英語青年』, 1996年5月号, 6月号, 7月号, 9月号
- 平田 達治 『ウィーンのカフェ』, 大修館書, 1996年5月1日
- 西脇順三郎 「オスカー・ワイルドの機知」, 『幻影』, 「西脇順三郎を偲ぶ会」会報, 1996年6月
- 伊藤 勲 「ペイタリアン西脇順三郎と世紀末文学」, 『幻影』, 「西脇順三郎を偲ぶ会」会報, 1996年6月
- 遠山 一行 「ワイルドの『芸術論』」, 『猫好きの話 西麻布雑記』, 小沢書店, 1996年7月20日
- 新谷 好 「服装と女優 オスカー・ワイルドのセクシュアリティに触れて」, 『隠された意匠』, 南雲堂, 1996年7月25日
- 無 署 名 「同人・結社誌から／『幻影』第12号」, 『東京新聞』, 1996年7月31日
- Takashi Kaijima, *The Ballad of Marsyas: A Critical Study of The Ballad of Reading Gaol*, Bulletin of Hijiya University No. 2, 1996
- 岩波 剛 「演芸史に埋もれた女性に光 地人会」, 『サロメの純情』, 『産経新聞』, 1996年10月24日
- 小田島雄志 「舞台人スナップショット／岸田今日子, 突然「女」に」, 『新日新聞』, 1996年11月22日
- 嶺 隆 「芸術座」, 『帝国劇場開幕』, 中央公論社, 1996年11月25日
- Mihoko Kusachi, "Emotive images," *ASAHI EVENING NEWS*, 1997年1月10日
- 角田 信恵 「オスカー・ワイルド『謎のないスフィンクス』論」, 『英語青年』, 1997年1月号, 研究社
- 無 署 名 「宝塚星組の特別公演★心躍る2舞台 相次ぎ上京」, 『産経新聞』, 1997年1月23日
- 無 署 名 「きょうから『ドリアン・グレイの肖像』上演 宝塚歌劇団星組」, 『毎日新聞』, 1997年1月22日
- 三島由紀夫 「オスカー・ワイルド」, 『三島由紀夫のフランス文学講座』, 鹿島茂編, 筑

摩書房, 1997年2月24日

鶴岡 真弓 「女神モリガン——ワイルド母子のヒベルノフィリア」, 『ジョイスとケルト世界』, 平凡社, 1997年3月15日

千葉 剛 「『宮沢賢治——光と風の中の修羅』上演」, *PHOEBUS* (第3号), 1997年3月22日

伊藤 勲 「『社会主義の下における人間の魂』をめぐって——ワイルドの個人主義と批評主義——」, 『東京成徳短期大学紀要』第30号(鎌田正先生御退任記念号), 1997年3月31日

講演

千葉 剛 「戯曲『宮沢賢治——光と風の中の修羅』について エミリオ・ディキンソンとオスカー・ワイルドとの接点」, 1996年9月19日 主催: 大船渡商工会議所, 後援: 大船渡市, 大船渡青年会議所, 大船渡まちづくり塾

ワイルド情報

◆ワイルドの紹介

TBSテレビ「世界・ふしぎ発見! ガリバーと妖精の国 アイルランド大紀行」(1996年8月10日放送)で, アイルランドを代表する作家の1人として, オスカー・ワイルドが紹介された。

◆『サロメの純情』公演

地人会公演61『サロメの純情』が, 1996年10月11日より27日まで紀伊国屋ホール(東京都新宿区)で上演された。大正のはじめ, セミヌードでサロメを踊った一人が浅草オペラのダンサー・高木徳子だった。彼女をめぐる人生模様の物語。出演: 前田美波里, 中山仁, 福原一臣, 寺田路恵。原作: 斎藤麟, 演出: 木村光一, 舞台監督: 梅山茂, 装置: 妹尾河童。これは芸術文化振興基金助成事業として上演されたもの。

◆翻訳書の表紙にサロメの絵

マルタン・モネステイエ著, 吉田春美, 大塚宏子訳『図説 死刑全書』(原書房, 1996)の表紙にギュスターヴ・モローの絵「出現」が使われた。

◆映画にワイルドの名前

映画『ザ・ロック』(ブエナビスタ社, 1996年9月14日に日本公開)の主人公の台詞の

中にオスカー・ワイルドの名前が登場した。監督: マイケル・ベイ, 出演: ニコラス・ケイジ, ショーン・コネリー, エド・ハリス, マイケル・ビーン。

◆人形劇・幸福な王子

NHK教育テレビ「人形劇場」(1996年11月16日放送)で『幸福な王子』が放映された。朗読: 藤田淑子

◆「素粒子」にワイルドの言葉

朝日新聞(1996年12月13日)の「素粒子」欄にワイルドの「実感されたものはすべて正しい」という言葉が紹介された。

◆象徴派展に「サロメ」の絵

Bunkamura ザ・ミュージアム(東京都渋谷区)で1996年12月14日より1997年2月9日まで, 「象徴派」展が開催され, ギュスターヴ・モローの「サロメ」が展示された。尚, これは, 1997年2月15日より3月30日まで姫路市立美術館でも開催された。

◆宝塚のミュージカル

1997年1月22日より29日まで, 宝塚歌劇団星組が, ミュージカル『ドリアン・グレイの肖像』を, 日本青年館大ホールで上演した。脚本・演出: 中村暁, ドリアン・グレイ: 紫吹淳, シビル・ヴェイン & ヘティ・マートン: 月影瞳(2役), ヘンリー卿: 湖月わたる, バジル・ホールワード: 久城彬。

◆トーク&シネマ

1997年5月24日, 津田ホール(東京都渋谷区千駄ヶ谷)で『ウィンダムファ夫人の扇』が上映された。主催: 財団法人津田塾会, 講師: 澤登翠, 監督: エルンスト・ルビッチ, 制作: 1925年。

(千葉剛・佐々木隆)